

テンパス



TEMPUS

2021年(令和3年) **74**号

国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理

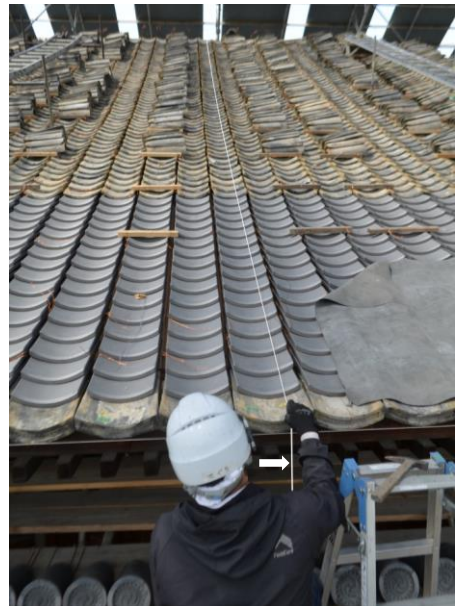
進む屋根瓦の工事



葺かれていく平瓦



葺かれていく丸瓦



クサリ(矢印)をピンと張って
平瓦の並び具合を調整



丸瓦の重なり具合を確認

も く じ

国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理 その3

東京オリンピックと貝塚 - 貝塚市歴史展示館の展示資料から - ③

『和泉葛城山ブナ林 10ヵ年計画』を策定しました

／シンポジウム開催 「和泉葛城山ブナ林シンポジウム」

根福寺城跡(こんぷくじじょうあと)の調査

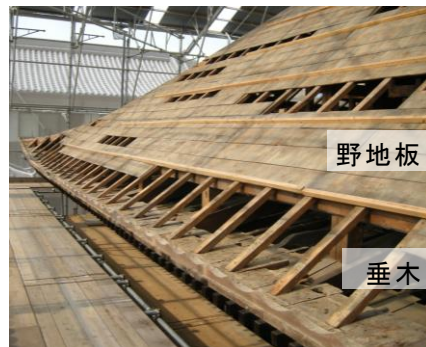
古文書講座—市内に残る身近な古文書—

文化財講座・セミナー・展示



国宝孝恩寺観音堂 令和の大修理 その3

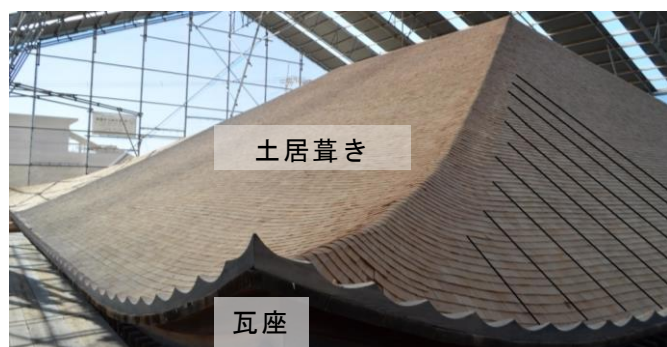
本市木積（こつみ）にある孝恩寺では、本堂である観音堂（通称 釘無堂（くぎなしどう））の保存修理工事が進められています。令和2年12月から令和3年1月にかけて、瓦を葺（ふ）く準備として、垂木（たるき）の取替えや野地板（のじいた）の貼り直しなどの屋根に使われている木材の修理の後、雨漏りを防ぐ板葺き工法の土居葺（どいぶ）きが設置されました。今号では、令和3年2月上旬から始まった屋根瓦を葺く工事の概要を紹介します。



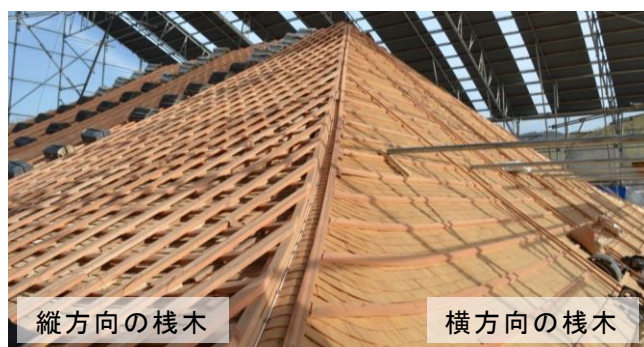
傷んだ野地板をはがして垂木が見えている状況

瓦座（かわらざ）と棧木（さんぎ）の取り付け

軒平瓦（のきひらがわら）を葺くために、軒先に瓦の形にあわせて波のような形をした瓦座（かわらざ）が取り付けられました。次に、土居葺きの上に瓦を固定するための棧木（さんぎ）が、一定の距離を開けて、横方向、縦方向の順で取り付けられました。横方向の棧木は、土居葺きの薄い板と野地板の下にある垂木まで届く長い釘を使って固定されています。釘を打つ目安として、垂木のある位置に墨で線が引かれました。また、縦方向の棧木は、平瓦の幅に合わせて、横方向の棧木の上に短い釘で打ち付けて固定されました。



軒先に瓦座が取り付けられ、側面（東面、画面右側）の屋根には垂木の位置に墨で線が引かれています



背面（北面、画面左側）の屋根は棧木の取り付けが終わり、側面（西面、画面右側）の屋根の取り付けが進められています

軒平瓦（のきひらがわら）、平瓦（ひらがわら）を葺く

瓦葺きはまず、軒平瓦、平瓦の順で行われました。軒平瓦は、瓦座に合わせて短く加工した平瓦を置き、その上に葺いていきました（下部写真）。軒平瓦と軒より上の屋根部分の平瓦は、葺土（ふきつち／粘土にワラを入れて発酵させたもの）が使用されています。

近年の文化財の修理では、地震に強い建物にする目的で屋根にかかる荷重を軽減するため、瓦は葺土を使わない空葺きを採用しています。空葺きの場合、瓦を固定するため瓦に穴をあけるなどの加工が必要となります。

しかし、孝恩寺観音堂は、耐震診断で補強が不要との判定が出ており、土葺きでも影響ないと診断されています。今回の修理では平安時代



軒平瓦の下には加工された平瓦と葺土が見えます

や鎌倉時代の古い瓦を再利用すること、瓦の強度を高めるために樹脂で補強している瓦もあることから加工は難しく、土葺きが採用されました。ただし、軒部分については荷重を軽減することで軒の下がりなどを防ぐために空葺きが採用されることになりました。

古い瓦の再利用については、①正面（南面）の軒先と②軒より上の屋根部分、③背面（北面）の軒より上の屋根部分の3ヵ所に江戸時代以前の瓦が、側面（東西の面）には大正時代の瓦が再利用されています。また、今回新しく焼かれた瓦は、正面の軒と背面の軒・屋根の一部に葺かれています。



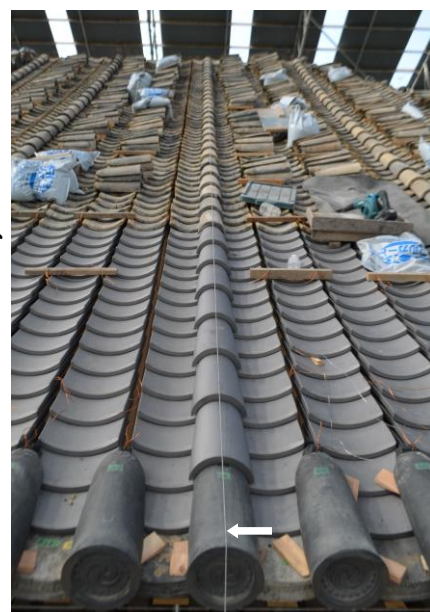
葺かれていく軒平瓦

軒丸瓦（のきまるがわら）、丸瓦（まるがわら）を葺く

軒平瓦、平瓦が葺き終わると、軒丸瓦、丸瓦が葺かれました。軒丸瓦、丸瓦は南蛮漆喰（なんばんじっくい／消石灰を主原料とする漆喰に砂や繊維を混ぜ、強度をもたせたもの、下部右写真）を使って固定していききました。

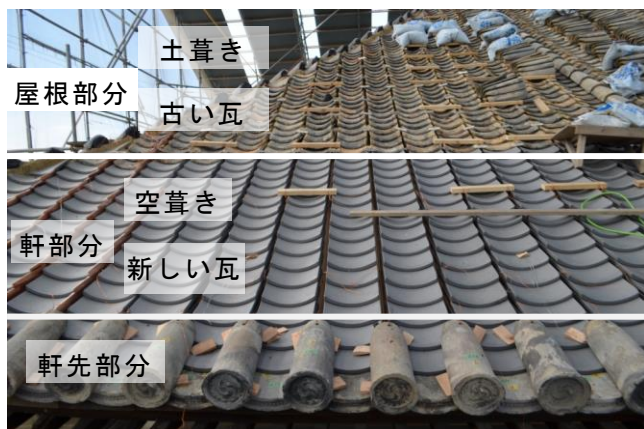
昔は、瓦を葺く際には葺土を使用して固定していましたが、行基葺（ぎょうきぶき）は、釘で瓦を固定せずに重ねていくため、瓦のずれや雨漏りの原因にもなっていました。南蛮漆喰は、葺土と違って強く固まりずれにくく、永年の風化にあっても分量が減り、すき間ができることがなく防水性が高いことから、今回の修理で採用されました。

右の写真は、屋根の上まで丸瓦を葺いた状態ですが、クサリを中心線の基準にして瓦が左右にずれていないか、重なり具合が均一かどうかを確認しながら修正していききます。丸瓦が屋根全体に葺かれてきたら、それぞれの丸瓦の上下の並び具合だけでなく、隣の筋と丸瓦の重なる位置がそろっているかどうかまで確認していききます。



屋根の上まで葺かれた丸瓦
クサリ（矢印）で中心線を決めて調整をします

屋根の工事は、丸瓦が葺き終わると、屋根最上部の大棟（おおむね）の瓦や鬼瓦（おにがわら）などを設置し、令和3年7月末に終了する予定で進められていきます。



軒平瓦、平瓦、軒丸瓦が葺かれた南面の屋根



丸瓦は南蛮漆喰（矢印）で固定

東京オリンピックと貝塚 - 貝塚市歴史展示館の展示資料から - ③

昭和39（1964）年に開催された前回の東京オリンピックと貝塚市をつなぐ最も大きな出来事は、市内半田にあったニチボー株式会社貝塚工場を拠点として活躍した、「東洋の魔女」、ニチボー貝塚女子バレーボールチーム（以下、「ニチボー貝塚」）の活躍です。

ニチボー貝塚は、東京オリンピックの2年前、昭和37（1962）年に旧ソビエト連邦のモスクワで開催された第4回世界バレーボール選手権大会でソ連チームを破り、世界一のチームとなりました。そのため、女子バレーボールが正式種目に決まった昭和39年の東京オリンピックでも金メダル獲得が大きく期待されました。その期待を示す資料の一つとして、当時発売された記念切手があります。東京オリンピックの記念切手は、会場施設や開催競技を図柄にしたものが発売されました。昭和38（1963）年6月23日のオリンピック・デーに際して発売されたバレーボールを図柄とした記念切手（右写真）は、ニチボー貝塚のキャプテン河西昌枝（かさいまさえ）選手と副キャプテンの宮本恵美子（みやもとえみこ）選手がモデルになりました。図柄は、スパイクを打つ宮本選手とそれをブロックする外国人選手、その後方に宮本選手を見つめる河西選手を配置した構図となっています。



オリンピック東京大会記念切手
（バレーボール）

そして、東京オリンピックには、ニチボー貝塚の大松博文（だいまつひろぶみ）監督と10人の選手が日本代表として選ばれました。大会では、アメリカ、ルーマニア、韓国、ポーランドを破り決勝に進出し、10月23日に駒沢屋内球技場で行われた決勝戦ではソ連に3-0で圧勝し、金メダルを獲得しました。

貝塚市では、11月2日に当時の市公会堂で優勝歓迎会を、11月9日には当時の市民体育館で優勝祝賀会を開催し、市をあげて凱旋（がいせん）したニチボー貝塚を祝福しました。その時作成、配布されたカラー印刷の東京オリンピック優勝記念色紙（右写真）には、金メダルと日の丸カラーの制服を身につけた大松監督と10人の選手たちの勇姿、それぞれのサインが印刷されています。

2度目となる東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が間もなく開催されますが、「東洋の魔女」ニチボー貝塚が果たした偉業は、これからも語り継いでいくべき貝塚市の歴史上の出来事の一つでしょう。



ニチボーバレーボールチーム
東京オリンピック優勝記念色紙

※歴史展示館では、上記の色紙をデザインしたものを含んだ博物館カード「はくふだ」を配布しています。館内で簡単なミッションをクリアすることで好きなカードを1枚お渡ししますので、ご来館の際にはぜひチャレンジしてください。

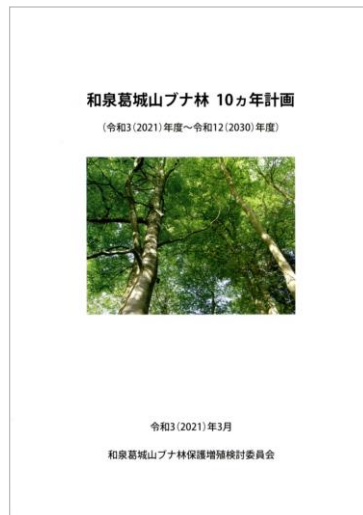


国の天然記念物 和泉葛城山ブナ林を守るために

『和泉葛城山ブナ林 10ヵ年計画』を策定しました



令和2（2020）年10月発行のテンプス72号で大豊作をお伝えした和泉葛城山ブナの種子でしたが、夏場に十分な栄養が種子に供給されなかったため発芽能力のある健全な種子がかなり少なく、その中でなんとか確保した種子については、令和2年12月に岸和田市塔原（とのほら）町にある苗畑に播種（はしゅ／種をまくこと）しました。このように、豊作年であっても健全な種子を確保できるとは限らないことから、和泉葛城山ブナ林を守っていくためには、長期的に保護増殖に取り組む必要があります。そのため、本市、岸和田市、公益財団法人大阪みどりのトラスト協会、学識経験者などからなる和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会では、ブナ林の現状把握、特に天然記念物（コアゾーン）のブナの生育状況、森林植生の内容などを踏まえ、令和3（2021）年度から始まる『和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画』（右写真）を令和3年3月に策定しました。



この計画では、これまでの取り組みを再検討するとともに、ブナ林の保護増殖に関連する今日的な課題や将来的なリスクを明らかにした上で、10年間の和泉葛城山ブナ林保護増殖の取り組みの方向性について取りまとめています。詳しくは、公益財団法人大阪みどりのトラスト協会のホームページをご覧ください。



シンポジウム開催 「和泉葛城山ブナ林シンポジウム」 『和泉葛城山ブナ林の過去・現在・未来を語る』

上記の『和泉葛城山ブナ林 10ヵ年計画』の策定を受けて、下記のようにシンポジウムを開催します。シンポジウムの内容については、6月20日（日）から、公益財団法人大阪みどりのトラスト協会のYouTubeアカウントで動画配信いたします。

- 講演 ①ブナ林保護増殖の経過（布谷知夫 三重県総合博物館 前館長・同特別顧問）
②ブナの結実・芽生え・若木の生育など、調査結果からわかったこと
（田中正視 貝塚市文化財保護審議会委員）
③「和泉葛城山ブナ林10ヵ年計画」の概要
（佐久間大輔 大阪市立自然史博物館 学芸課長）

外、パネルディスカッション

問合せ先 （公財）大阪みどりのトラスト協会

電話 06-6614-6688

FAX 06-6614-6689



配信を視聴される場合は、（公財）大阪みどりのトラスト協会のホームページをご覧ください。



当初、有観客で開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、オンラインでの動画配信となりました。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

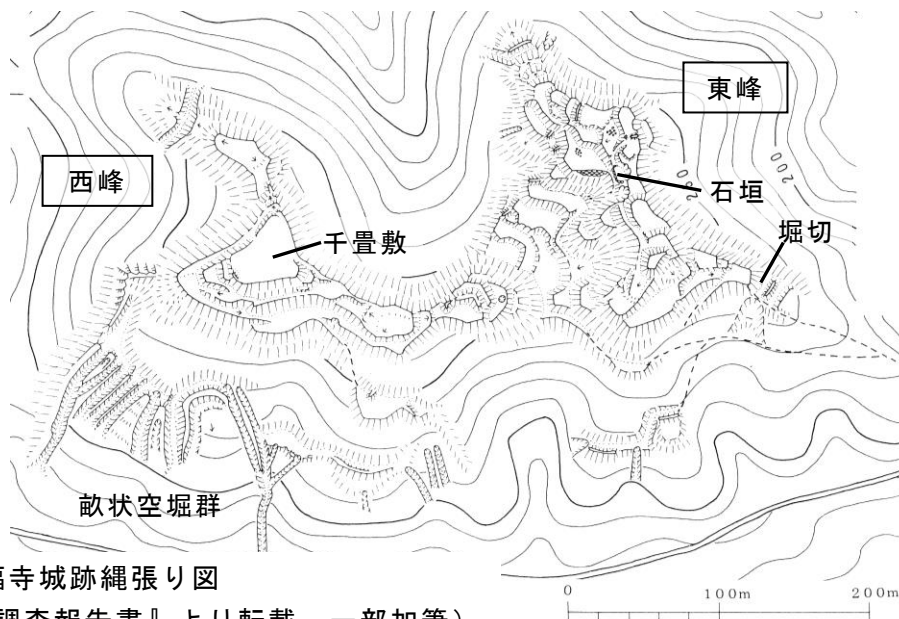
根福寺城跡(こんぷくじょうあと)の調査

根福寺城は、大川と秬谷（きびたに）の集落の北側にある山城です。水間村の庄屋・井手家に残る古文書には、天文4（1535）年に和泉国守護代の松浦肥前守守（まつらひぜんのかみまもる）が築城し、当初は野田山城と呼ばれていましたが、天文12（1543）年に根来寺の支配下になり根福寺城に改称したと書かれています。城は東西500m、南北350mの尾根に広がるもので、高槻市の芥川山（あくたがわさん）城（500×500m）、四條畷市・大東市の飯盛（いいもり）城（400×650m）と並び大阪府内最大級の山城の一つです。

今回、野田山城・根福寺城跡保存会の山本太郎さんの協力を得て令和3年3月8日から11日にかけて調査を行いました。調査は、研究者により作成された縄張り図をベースに、東峰から西峰の千畳敷と呼ばれる平坦な部分まで、歩いて状況を調べる踏査を行い、堀切（ほりきり）と言う尾根筋の侵入を防ぐための堀や、斜面の横方向の移動を防ぐ竪堀を並べて造られた畝状空堀群（うねじょうからほりぐん）などの現状を確認しました。

調査の結果、広範囲で点々と瓦を採集することができたほか、東峰では、平安時代まで遡（さかのぼ）る可能性のある土師器（はじき）や須恵器（すえき）、中世の陶磁器などの土器を採集しました。採集遺物から、城郭内に瓦葺（ぶ）きの建物が建てられていたこと、城郭が造られる以前から人が生活していたことが分かりました。結果を受けてさらに調査を深めるため、城郭の研究者に協力を求め、引き続き調査を実施していく予定です。

※城跡は、私有地のため立ち入ることはできませんのでご注意ください。



根福寺城跡縄張り図

（『貝塚市基本調査報告書』より転載、一部加筆）



瓦の散布状況



東峰の石垣



堀切

古文書講座

— 市内に残る身近な古文書 —

◆ ぼっかんさん紀の路を行く 2

新型コロナウイルス感染対策として、令和3年3月10日・17日・24日の水曜日と、3月12日・19日・26日の金曜日の2グループに分けて定員30名・回数3回に抑えて、「ぼっかんさん紀の路を行く2」と題し、古文書講座を開催しました。



講義に聞き入る受講者のみなさん

令和2年10月に開催した古文書講座「ぼっかんさん紀の路を行く」では、「紀の路御遊覧日記（きのじごゆうらんにつき）」（和歌山県立文書館所蔵）のうち旅のダイジェスト版ともいえる「仮名序（かなじょ）」を取り上げましたが、今回は本編の第1日目から第2日目の夜までの道のりを読んでいきました。

貝塚を文政7（1824）年、旧暦9月23日未明に出発した第10代ト半了真（りょうしん）ら一行は、まず犬鳴山七宝瀧寺（しっぽうりゅうじ／泉佐野市大木）を目指しました。午後からは雨に見舞われ、ずぶ濡れになった峠道、険しい山道をようやく越えて紀伊国へ入り、粉河（和歌山県紀の川市粉河）で宿泊しました。翌日は粉河寺や長田観音などを見て回り、岩出（和歌山県岩出市清水）で宿泊しました。日記には道中で詠んだ俳句や、食事の献立などが記されており、旅の雰囲気再現させるものとなっています。

受講者の方からは「この時代の人の旅がいかに大変かと思いました。悪天候に振り回されて四苦八苦の様子。現在、犬鳴から和歌山への道は簡単ですが、ぼっかんさんが歩いた名勝の地もあり、楽しく受講できました。」との感想が寄せられました。

古文書講座 64（通算 300 回～304 回）開催のお知らせ

テーマ ぼっかんさん紀の路を行く 3

日時 1 班（水曜） 第1回 6月23日、第2回 7月7日、第3回 7月14日、
第4回 7月21日、第5回 7月28日

2 班（金曜） 第1回 6月25日、第2回 7月2日、第3回 7月9日、
第4回 7月16日、第5回 7月30日

いずれも午後1時15分～3時45分

会場 貝塚市民図書館2階視聴覚室

定員 各班30人（先着順）

資料代 200円

申込 希望する班・住所・氏名・電話番号を、電話・ファックス・Eメールのいずれかで、下記まで事前にお申込みください。

申込・問合せ先 〒597-8585 貝塚市畠中1丁目12-1（貝塚市民図書館2階）

社会教育課郷土資料室 TEL 072(433)7205 / FAX 072(433)7053

Eメール shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

文化財講座・セミナー・展示

◆ 6 月 **歴史** 企画展「東京オリンピックと貝塚2」〈～9月6日（月）〉

郷土 23日（水）13:15～15:45

古文書講座64 **1班** 「ぼっかんさん紀の路を行く3」

郷土 25日（金）13:15～15:45

古文書講座64 **2班** 「ぼっかんさん紀の路を行く3」

◆ 7 月 **郷土** 2・9・16・30日（金）13:15～15:45

古文書講座64 **2班** 「ぼっかんさん紀の路を行く3」

郷土 7・14・21・28日（水）13:15～15:45

古文書講座64 **1班** 「ぼっかんさん紀の路を行く3」

◆ 8 月 **郷土** 「貝塚市の指定文化財」展 第2期〈7月10日（土）～8月29日（日）〉

◆ 9 月 **郷土** 「貝塚の民話」絵本原画展 2021〈9月11日（土）～10月31日（日）〉

歴史 企画展「貝塚市の公共施設の移り変わり」

〈9月29日（水）～令和4年3月31日（木）〉

※ **郷土**：郷土資料展示室・郷土資料室、**歴史**：歴史展示館

なお、郷土資料展示室は7月9日（金）まで、郷土資料室および歴史展示館は6月20日（日）まで臨時休室・臨時休館しています。

※6月20日まで臨時休館しています

歴史展示館 企画展「東京オリンピックと貝塚2」

9月6日（月）まで開催

過去に市民の皆さまからご寄贈いただいた1964（昭和39）年の東京オリンピックの関係資料とともに、「東洋の魔女」ニチボー貝塚女子バレーボールチームに関する写真や当時の聖火リレーの写真等を展示しています。また、市内での開催が中止となった東京2020オリンピック聖火リレーの関係資料もあわせて展示しています。

〈会期中の休館日〉

毎火曜日

7月22日（木）、7月23日（金）

8月8日（日）、8月9日（月）



新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、上記イベントは開催延期・変更・中止となる場合があります。ご理解をお願い申し上げます。

かいづか文化財だよりテンプス74号



令和3年6月10日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年3回発行：各1,000部



貝塚市イメージ

キャラクター

つげさん

貝塚市特産品「つげ櫛」をモチーフとしたデザイン。